

にし がわ
西川

西川区は村の南西部に位置して和歌山県田辺市本宮町、中辺路町、龍神村と接し、村の中では面積が最大の区になっています。上流から迫西川、小坪瀬、小山手、西中、今西、玉垣内、永井、重里の八大字が並んでいます。



盆踊りは重里の旧西川第一小学校の校庭で、8月15日に行われます。また、盆踊り以外には、龍神村から伝えられた獅子神楽が子どもたちによって伝承されています。

盆踊りには地元の重里だけではなく、流域各地から帰省客も含めた人々が訪れます。レパートリーは30曲を超えます。ばか踊りと呼ばれる、各地の民謡などにフリをつけたものなど25曲のほか、西川の盆踊りといえば白眉の大踊群があります。群というのは複数あるという意味で、武蔵、小原、湯之原で伝承されているのは1~2曲高えすが、西川では6曲が伝承されています。

大踊は風流系の太鼓踊りで、和紙でできた房のついたバチで太鼓を打ちます。打つのは男性で、自ら首からかけるものと、女性に持ってもらう二種類があります。盆踊りの時には、ばか踊りの間に挟み込んで、基本的に「よりこ」「いりは」「かけ入り~大もち」が踊られます。そのほかの「しのび踊り」「かまくら踊り」「おはな踊り」は60年以上も途絶えていたのですが、近年に現保存会長の太谷芳史さんの大変な努力によって復元されました。

ばか踊りは大踊の儀式めいた雰囲気はなく、娯楽性があるので多くの人々が参加できます。西川のばか踊りの最大の特徴は、輪にならず、ほとんどが横列になって踊るところです。

踊りのフリとしては特に奇抜なものはありませんが、最も難しいものとして「追い分け」があります。何度も扇を斜め交差させながら回る踊りで、とても優雅です。この斜め交差の動きは「高い山」などにも見られます。音頭取りは太谷芳史さんと今西久子さんです。（中川）



西川





西川

撮影：佐古金一